

簿記原理 本試験

第一問 (45点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、答案用紙の () の中に記号で解答すること。

1. 営業に用いている建物の改良・修繕を行い、代金8,000,000円を、小切手を振り出して支払った。支払額のうち5,500,000円は建物の価値を高める資本的支出であり、残額は機能維持のための収益的支出である。

ア、当座預金 イ、貯蔵品 ウ、建物 エ、減価償却費 オ、消耗品費 カ、修繕費

2. 決算日に売上勘定の貸方残高50,000,000円を損益勘定に振り替えた。

ア、現金 イ、売上 ウ、普通預金 エ、支払手数料 オ、損益 カ、仕入

3. A銀行から5,000,000円を借り入れ、同額の約束手形を振り出し、利息80,000円を差し引かれた残額が当座預金口座に振り込まれた。

ア、当座預金 イ、現金 ウ、手形借入金 エ、貸付金 オ、支払手形 カ、支払利息

4. オフィスとしてビルの1部屋を1か月の家賃200,000円で賃借する契約を結び、1か月分の家賃、敷金(家賃2か月分)、および不動産業者への仲介手数料(家賃1か月分)を現金で支払った。

ア、支払手数料 イ、建物 ウ、差入保証金 エ、現金 オ、支払家賃 カ、発送費

5. 従業員が出張から戻り、下記の報告書および領収書を提出したので、本日、全額を費用として処理した。旅費交通費等報告書記載の金額は、その全額を従業員が立て替えて支払っており、月末に従業員に支払うこととした。なお、電車運賃は領収書なしでも費用計上することになっている。

旅費交通費等報告書			
氏名：大井幸助			
移動先	手段等	領収書	金額
奈良商事	電車	無	1,400
ホテル奈良	宿泊	有	9,000
帰社	電車	無	1,400
		計	11,800

領収書	
あすか税理士法人	
大井幸助 様	
金	9,000 円
但し、宿泊料として	
ホテル奈良	

ア、通信費 イ、旅費交通費 ウ、当座預金 エ、買掛金 オ、給料 カ、未払金

6. 当座預金口座からの振り替えにより1,000,000円を定期預金口座へ預け入れた。

ア、当座預金 イ、現金 ウ、受取利息 エ、定期預金 オ、貸付金 カ、普通預金

7. 家具卸売業を営む奈良家具店は、販売用の机10台を@30,000円で購入し、代金は翌月払いとした。その際の引取運賃25,000円は、現金で支払った。

ア、備品 イ、発送費 ウ、買掛金 エ、消耗品費 オ、現金 カ、仕入

8. 決算において、本年度の法人税、住民税及び事業税が525,000円と確定した。なお、225,000円についてはすでに中間納付をしている。

ア、法人税等 イ、未払法人税等 ウ、租税公課 エ、仮払法人税等 オ、損益 カ、現金

9. 商品200,000円をクレジット払いの条件で顧客に販売した。信販会社へのクレジット手数料は販売代金の2%であり、販売時に計上する。

ア、支払利息 イ、未収入金 ウ、クレジット売掛金 エ、現金 オ、支払手数料 カ、売上

10. 以前に購入していた土地（購入価格520,000円、購入手数料12,000円）を550,000円で売却し、代金は後日受け取ることにした。

ア、土地 イ、固定資産売却益 ウ、固定資産売却損 エ、未収入金 オ、建物 カ、売掛金

11. 商品270,000円を売り上げ、代金は100,000円を得意先振り出しの約束手形で回収し、注文時に受け取った手付金8,000円を差し引いた残額は掛けとした。当社負担の発送費2,000円は現金で支払った。

ア、仮受金 イ、買掛金 ウ、前受金 エ、現金 オ、売掛金 カ、受取手形 キ、売上
ク、発送費

12. 今月の従業員に対する給料総額は3,000,000円であり、所得税の源泉徴収額225,000円および社会保険料（健康保険・厚生年金・雇用保険の保険料）300,000円を控除した残額を、普通預金口座から振り込んだ。

ア、社会保険料預り金 イ、法定福利費 ウ、給料 エ、所得税預り金 オ、当座預金
カ、普通預金

13. 借入金の利払いとして7,000円が当座預金口座から引き落とされた。

ア、現金 イ、支払利息 ウ、受取利息 エ、通信費 オ、当座預金 カ、支払手数料

14. 期首に建物（取得原価20,000,000円、残存価額は取得原価の10%、耐用年数20年、期首までの償却年数は8年、減価償却費は定額法により計算し、記帳方法は間接法による）を、8,000,000円で売却し、代金として相手先振り出しの小切手で受け取った際、次のように記帳されていたので、適切に修正する。

（借）現金	8,000,000	（貸）建物	20,000,000
固定資産売却損	12,000,000		

なお、訂正にあたっては記録の誤りのみを部分的に修正する方法によること。

ア、建物減価償却累計額 イ、現金 ウ、固定資産売却損 エ、建物 オ、減価償却費
カ、固定資産売却益

15. 決算日において、現金過不足（不足額）12,200円の原因をあらためて調査した結果、通信費18,000円の支払い、および手数料の受取額6,000円の記入漏れが判明した。残りの金額は原因が不明であったので、適切な処理を行う。

ア、現金 イ、受取手数料 ウ、雑損 エ、現金過不足 オ、雑益 カ、通信費

第二問 (20点)

問1 ×2年4月1日に設立された桜井商事株式会社の次の【資料】にもとづいて、下記の(1)と(2)に答えなさい。

【資料】

第1期 (×2年4月1日から×3年3月31日まで)

- ・決算において、当期純利益2,000,000円を計上した。
- ・第1期には配当を行っていない。

第2期 (×3年4月1日から×4年3月31日まで)

- ・決算において、当期純損失350,000円を計上した。
- ・第2期には配当を行っていない。

第3期 (×4年4月1日から×5年3月31日まで)

・6月25日に開催された株主総会において、繰越利益剰余金残高から次のように処分することが決議された。

株主配当金 100,000円 配当に伴う (?) の積立て 10,000円

- ・6月28日に、株主配当金100,000円を普通預金口座から支払った。
- ・決算において、当期純利益1,600,000円を計上した。

(1) 第2期の決算において、損益勘定で算定された当期純損失350,000円を繰越利益剰余金勘定に振り替える仕訳を答えなさい。勘定科目については下記の【語群】の中から選択し、ア～カの記号で答えること。

(2) 答案用紙の第3期における繰越利益剰余金勘定に必要な記入をして締め切りなさい。ただし、摘要欄に記入する語句については下記の【語群】の中から選択し、ア～カの記号で答えること。

【語群】

ア、損益 イ、次期繰越 ウ、普通預金 エ、利益準備金 オ、資本金 カ、繰越利益剰余金

問2 宇陀商事株式会社の次の【資料】にもとづいて、下記の(1)～(3)に答えなさい。なお、商品売買取引の処理は3分法により行っている。

【資料】 ×8年7月中の取引

- 1日 備品870,000円を購入し、引取運賃30,000円を含めた合計額を、小切手を振り出して支払った。
- 10日 商品350,000円を仕入れ、注文時に支払った手付金50,000円を差し引いた残額を掛けとした。
- 16日 売掛金90,000円を現金で回収した。
- 28日 商品800,000円を売り上げ、代金のうち50,000円を現金で受け取り、残額は掛けとした。
- 31日 月次決算処理のひとつとして、7月1日に購入した備品について、残存価額をゼロ、耐用年数を5年とする定額法で減価償却を行い、減価償却費を月割で計上した。

- (1) 1日、10日および16日の取引が、答案用紙に示されたどの補助簿に記入されるか答えなさい。なお、回答にあたっては、該当するすべての補助簿の欄に○印を付すこと。
- (2) 3伝票制により、28日の取引について、入金伝票を次のように作成したときの振替伝票への記入を答案用紙に示しなさい。なお、勘定科目については下記の【語群】の中から選択し、ア～オの記号で答えること。

入金伝票	
科目	金額
売掛金	50,000

【語群】

ア、現金 イ、買掛金 ウ、売上 エ、仕入 オ、売掛金

- (3) 31日に計上される減価償却費の金額を答えなさい。

第三問 (35点)

当社（会計期間は×7年4月1日から×8年3月31日までの1年間）の(1)決算整理前残高試算表および(2)決算整理事項等にもとづいて、下記の問題に答えなさい。なお、消費税の仮受け・仮払いは、売上時・仕入時にのみ行うものとし、(2)決算整理事項等の6. 以外は消費税を考慮しない。

(1)

決算整理前残高試算表

借方	勘定科目	貸方
2,129,000	現金	
4,615,000	普通預金	
6,435,000	売掛金	
400,000	仮払金	
2,475,000	仮払消費税	
650,000	仮払法人税等	
1,800,000	繰越商品	
4,500,000	備品	
3,000,000	貸付金	
	買掛金	4,620,000
	仮受金	35,000
	仮受消費税	4,128,000
	貸倒引当金	52,000
	借入金	1,000,000
	備品減価償却累計額	1,350,000
	資本金	10,000,000
	繰越利益剰余金	2,109,000
	売上	41,280,000
	受取利息	90,000
24,750,000	仕入	
135,000	発送費	
2,400,000	支払家賃	
350,000	租税公課	
11,025,000	その他の費用	
64,664,000	計	64,664,000

(2) 決算整理事項等

- 仮受金はかつて倒産した得意先に対する売掛金にかかる入金であることが判明した。なお、この売掛金は前期に貸倒処理済みである。
- 当社では商品の発送費（当社負担）について、1か月分をまとめて翌月に支払う契約を配送業者と結んでいる。×8年3月分の発送費は10,000円であったため、期末に費用計上する。
- 売掛金の期末残高に対して1%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 期末商品棚卸高は1,765,000円である。
- 備品について、残存価額をゼロ、耐用年数を10年とする定額法により減価償却を行う。
- 消費税の処理（税抜方式）を行う。
- 貸付金は×7年12月1日に期間1年、利率年3%の条件で貸し付けたものであり、利息は貸付時に全額受け取っている。そこで、利息について月割により適切に処理する。
- 仮払金は×8年4月分と5月分の2か月分の家賃が×8年3月28日に普通預金口座から引き落とされたものであることが判明した。そこで、家賃の前払分として処理する。
- 法人税等が850,000円と計算されたので、仮払法人税等との差額を未払法人税等として計上する。

問1 答案用紙の決算整理後残高試算表を完成しなさい。

問2 当期純利益または当期純損失の金額を答えなさい。なお、当期純損失の場合は金額の頭に△を付すこと。

第一問 (45点)

	借方		貸方	
	記号	金額	記号	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

	借方		貸方	
	記号	金額	記号	金額
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

第二問 (20点)

問 1

(1)

借方		貸方	
記号	金額	記号	金額

(2)

繰越利益剰余金

× 4/6/25 未払配当金	100,000	× 4/4/1 前期繰越	()
× 4/6/25 【 】	10,000	× 5/3/31 【 】	()
× 5/3/31 【 】	()		
	()		()

問2

(1)

	現金出納帳	当座預金出納帳	商品有高帳	得意先元帳	仕入先元帳	仕入帳	売上帳	固定資産台帳
1日								
10日								
16日								

(2)

振替伝票			
借方		貸方	
記号	金額	記号	金額

(3) () 円

第3問 (35点)

問1

決算整理後残高試算表

借方	勘定科目	貸方
2,129,000	現金	
	普通預金	
	売掛金	
	繰越商品	
	() 家賃	
4,500,000	備品	
3,000,000	貸付金	
	買掛金	4,620,000
	未払金	
	() 消費税	
	未払法人税等	
	() 利息	
	貸倒引当金	
	借入金	1,000,000
	備品減価償却累計額	
	資本金	10,000,000
	繰越利益剰余金	
	売上	
	受取利息	
	()	
	仕入	
	発送費	
	支払家賃	
	租税公課	
	貸倒引当金繰入	
	減価償却費	
11,025,000	その他の費用	
	法人税等	
	計	

問2 () 円